

トランスジェンダー アーカイブ・歴史・教育

日時：2018年4月29日（日） 14：30～18：30

会場：インテリジェントホール（一橋大学国立キャンパス、西キャンパス）

* イベント詳細は後日にCGraSSのホームページに更新されます。

<http://gender.soc.hit-u.ac.jp/index.html>

『世界で唯一のトランスジェンダー専攻長の紹介』*英日通訳あり アロン・デヴォー (AARON DEVOR) ヴィクトリア大学 VICTORIA UNIVERSITY

2016年1月、トランスジェンダー研究では世界で唯一となる専攻長がカナダのヴィクトリア大学において任命された。その任務は、研究の発展と普及を促進すること、トランスジェンダー当事者の尊重とその理解を高めるためにトランスジェンダーとシスジェンダーのコミュニティに働きかけることである。専攻長として、二つの主要な事業を担い、多くの新たな活動を導入している。2011年に設立されたトランスジェンダー・アーカイブズは、トランスジェンダーに関する研究と活動の原本記録をまとめた、世界最大規模のコレクションである。160メートルにも及ぶ棚は、トランスジェンダー当事者による、あるいは当事者についての研究に関する100年分の記録およびトランスジェンダー・アクティビズムに関する50年分の記録を、五大洲18の国々から集め、収容する。2014年に始められた「トランス史の前進に向けた会議」は、あらゆる年齢層の学生や研究者、アーティスト、家族、そしてコミュニティ活動家のユニークな混合となっている。専攻長として、アートや文化イベント、教育向けの講演者、社会イベント、奨学金制度や研究助成制度を後援している。さらに、政策決定者に対するアドバイス、調査の実施、大学院生の指導、講義を行い、また頻りにメディアに向けて話をしている。

本講演は、トランスジェンダー研究の専攻長におけるこれらの達成や今後の展望のいくつかについて紹介する。



『日本における性別越境の歴史』 三橋順子 性社会・文化史研究者



日本における性別越境の歴史を概観する。日本の伝統宗教（神道・仏教）には異性装を禁じる規範がない。したがって前近代の日本では、異性装は宗教、芸能、セックスワークなど、さまざまな場で行われていた。しかし、近代（明治～昭和戦前期、1868～1945年）になると、異性装をタブー視する西欧のキリスト教規範の影響で異性装への抑圧が強まる。さらに、20世紀初頭に導入された「変態性欲」理論によって抑圧に学問的な根拠が与えられた。トランスジェンダー的な人々は一部を除きアンダーグラウンド化せざるを得なかった。敗戦（1945年8月）によって旧来の社会体制が大きく揺らぐと、それまで抑圧されていたトランスジェンダー的な人々が社会の表面に浮上する。1949年には上野（ノガミ）の女装男娼を描いた『男娼の森』がベストセラーになった。1950年代後半以降、ショービジネス、飲食接客業、セックスワークなどに従事するプロフェッショナルなトランスジェンダー（ゲイボーイ→ニューハーフ）が活躍する。1950年代後半～60年代には、女装を生業としないうアマチュアの女装者も顕われる。こうして1990年代には、世界で最も高度に分化・発達したトランスジェンダー世界が形成された。ところが、1990年代末から2000年代初頭にかけて「性同一性障害」概念が導入されると、性別越境の病理化が急速に進行し、トランスジェンダー世界は危機を迎えた。しかし、2010年頃から、リニューアルが進み、世界で最も長い伝統をもつ日本の性別越境文化は次代に継承されている。

『トランスジェンダーの子どもと教育・学校について考える』 薬師実芳 特定非営利活動法人ReBIT代表理事

トランスジェンダーの29%が不登校を経験し、58.6%が自殺念慮を抱いたことがあり、特に二次性徴期がその第一ピークであるという(*1)。また、トランスジェンダーの人は56.6%が小学校入学前まで、89.7%が中学生までに性別違和を自覚し始めたという(*1)。しかし、学校教育の中でLGBTや多様な性に関して知る機会があった高校1年生は9%であり(*2)、学校でのサポートや適切な情報提供は十分でないことが伺える。

2015年、文部科学省は全国の小中高高校へ、セクシュアルマイノリティの子どもへの対応配慮を求める通知を出しました。また、自治体・学校・NPOなどによる様々な実践が取り組まれ始めている。本発表では、トランスジェンダーの子ども達の現状や困りごとと、国・行政・学校・NPO等での取り組みについて知ることで、今後国内学校や教育機関で必要なことについて考えます。

*1: 中塚幹也(2010)『学校保健における性同一性障害: 学校と医療の連携』『日本医事新報』4521:60-64

*2: ReBIT出張授業アンケート(2014・2015)



パネルディスカッション

司会：ソニヤ・デール（一橋大学）

パネリスト：

アロン・デヴォー、三橋順子、薬師実芳、畑野とまと（ライター、トランスジェンダー活動家）

イベントのあとに懇親会を開催します。誰でも参加できます！

申し込みは不要です。

問い合わせ：sonja.dale@r.hit-u.ac.jp

TOKYO RAINBOW PRIDE

支援：Carnegie Council's Robert J. Myers Fund

このイベントは東京レインボープライドに協力しています。